

2025  
ズバリ! 的中



日本史

# 立命館大学

藤原惺窩の人物史に関する問題がズバリ的中

## 入試問題

2月2日実施 全学統一方式  
大問III 文章〔1〕  
空欄A・設問(a)

## 河合塾

2024年度 直前講習  
関関同立大日本史  
第2講〔III〕

III 次の文章〔1〕～〔5〕を読み、空欄 A ～ E にもっとも適切な人名を記し、かつ(a)～(o)の問いに答えよ。なお、史料については、一部読みやすいように改めている。

〔1〕 播磨国に生まれた A は、歌人の家の出であったことでも知られる。播磨で剃髪し、父の戦死後は京都相国寺で禅学を学んだ。文禄の役の講和のため来日していた明使節や、とりわけ慶長の役で捕虜として連行されてきた人物との出会いによって朱子学に転じた。彼の弟子の残した行状によれば、1600年、儒学者の服装である深衣道服を初めて着用して徳川家康に謁見したとされる。しかしながら、江戸幕府に出仕することはなく、京都で多くの弟子を育成した。

(a) 下線部①に関して、この人物は誰か。もっとも適切な人物を下から一つ選び、記号で答えよ。

- ② 姜沆      ③ 朱舜水      ④ 李舜臣      ⑤ 宋希環

〔III〕 次の文章①～⑤は、江戸時代の人物に関する記述である。①～⑤の文章に該当する人物名をそれぞれ漢字で解答欄Ⅲ-Aに記せ。また、文中の下線部a～dに関する各設問の解答をそれぞれ漢字で解答欄Ⅲ-Bに、下線部ア～ケに関する各設問の解答をそれぞれ番号で解答欄Ⅲ-Cに記せ。

① 彼は、歌人藤原定家の11世の孫として生まれた。戦国の争乱の中で父や兄を失った彼は、京都の相国寺に入って学僧となり、そこで儒学の經典に接した。仏教とは異なる儒学の社会倫理に惹かれた彼は儒学への傾斜を強め、直接中国の儒学に触れるため渡明を企てるが果たせず、京都帰還の後、六経を学ぶなかで、儒者としての確信を深めていった。慶長5年(1600)、上洛中の、徳川家康に深衣道服で謁したが、それは儒者たる立場にたつことの表明であった。その後、彼の下に、林羅山や松永尺五・石川丈山らが次々に入門し、また多くの大名・公卿とも親交をもった。彼は近世日本朱子学の祖とされるが、その学風は陽明学の長所をも受けいれるなど包摂性の高いものであった。

【設問】

- a. 林羅山は、「彼」の推挙で徳川家康に仕え、以後、羅山の子孫が幕府の教学を担当することになった。羅山が幕命により編纂し、その息子鷲峰が完成させた歴史書の書名を記せ。
- ア. この確信に大きな刺激を与えたのが、文禄・慶長の役の捕虜として日本に滞在していた朝鮮のある儒学者との出会いであった。「彼」に影響を与えた人物の名を選べ。
1. 隠元隆琦    2. 姜沆                      3. 朱舜水                      4. 李參平
- イ. 徳川家康が祀られた日光東照宮の霊廟建築様式の名称を選べ。
1. 神明造                      2. 大社造                      3. 権現造                      4. 数寄屋造